平成２８年度

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校　総括評価表

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			学校関係者の意見	今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度		総合評価		
Ⅱ　臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに，看護師国家試験全員合格をめざす。	《全校レベル》 臨地実習において必要な基礎学力の充実を図り，生徒の力量に応じた個別指導に取り組み，全員の看護師国家試験合格をめざす。 《下位組織レベル》 ①看護科と専攻科の連携を深め，臨地実習指導の充実を図る。 ［看護科教員］ ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 ［看護科教員］ ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 ［各施設担当者］ ④国試演習の充実を図る。　［進路指導課］ ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 ［進路指導課］	①生徒が意欲的に臨地実習に臨めるように事前指導の充実を図る。実習事前レポートを期日までに100％の生徒が提出できる。	実習前自己学習（実習事前レポート）は，ほぼ１００％の生徒が提出できている。レポートの内容の充実も図っている。	A	B （所見） 事前自己学習（実習事前レポート）は個人差が大きく，その取組が臨地実習の内容にも関連している。 臨地実習での学びや成果が，その後の学校における学習にも影響するので，充実した実習内容になるよう取り組んでいく。	事前指導，臨床指導者との連携，実習の振り返りと，充実した支援体制がとられている。 また，看護師５年一貫教育は，最年少で看護師免許を得るコースであるが，国家試験合格率100％と高い水準を維持できている。総合評価は「B」となっているが，「A」に変更してもよいのではないか。	高校生にとって，病院という学校外の環境で主体的に学ばなければならない看護臨地実習は，緊張の連続であり，ストレスフルな学習期間である。指導に当たっては，心身ともに温かくサポートすることを再認識し，実習指導の充実を図っていく。 また，看護記録様式等の改訂に取組み，効果的な指導に繋げる。
		②全ての生徒と面談し，個々に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。	実習中は個別指導に努め，支援体制を整えた。実習病棟側から頂いた資料等，また御指導いただいた内容は，生徒全員で共有した。	B			
		③臨地指導者との連携を密にし，生徒の問題を早期に把握し適切に対処できる。	病棟師長，臨地指導者と連携を密に取り，実習状況を把握するとともに問題の早期発見に努めた。	B			
		④臨地実習終了後は，生徒全員に，実習場面の振り返りを行わせ，思考判断能力を育成する。	臨地実習中はインシデントレポートを取り入れ思考判断能力の育成に努めた。また，臨地実習終了後は全員に実習場面の振り返りを行い，分析・判断能力の育成を行った。	B			
		⑤専攻科において，各模擬試験の有効活用を図り，必修問題８割，一般問題７割に満たない者は再試験を実施する。	全ての模擬試験において，必修問題８割，一般問題７割に満たない者は再試験を実施した。	B			
		⑥専攻科において，国試演習では看護師国家試験の出題基準を網羅し，内容の充実を図る。	各担当領域において出題基準を確認し，傾向と対策を分析，検討を行い，看護師国家試験演習を実施している。	B			
		活動計画	活動計画による実施状況				
		臨地実習を通して学びを深め，看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。	臨地実習での学び・体験を授業内容と関連づけたり，看護師国家試験過去問題を授業の復習問題に活用した。				
		①校内の講義・実習と臨地実習との関連を図り，適切な教材の提供を行う。臨地実習事前レポート課題の内容を精選し，長期休業前に提示する。	病棟の特徴に応じた事前学習内容を設定している。不備があれば個別に追加・訂正させ，指導している。				
		②臨地実習中は随時，個別指導を行うとともに，専門書を活用させ，自ら学ぶ環境を整える。	文献により科学的根拠の記録を追加させている。				
		③実習内容の報告を徹底し，生徒・教員間で連絡・相談を行う。	実習病棟から戻った際に報告を徹底するとともに，情報共有も綿密に実施している。				
		④専攻科において，各模擬試験の得点率が，必修問題８割，一般・状況設定問題６割以上になるまで再テスト実施する。	必修問題８割，一般・状況設定問題７割に達するまで再試験を実施している。				
		⑤専攻科において，補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け，個に応じた指導が行いやすいようにする。	習熟度別に補習や国試演習を行い，終了後も個別指導を実施している。				